

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101908		
法人名	社会福祉法人 博悠会		
事業所名	グループホームフランセーズ悠		
所在地	長野県長野市柳原2080番地11 (電話) 026-239-7500		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成20年12月23日

【情報提供票より】 (平成 20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算 12人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	冬季18,000円 夏季17,000円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	320 円	昼食 460 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,280 円

(4) 利用者の概要 (平成 20年 10月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	2	要介護 2	5		
要介護 3	8	要介護 4	3		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 84.2 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・中島医院 ・愛和病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野電鉄柳原駅と国道18号線の中間の住宅、商店、町工場などが混在する長野市北部地域に当ホームがある。職員を多めに配置しており、散歩や買い物に出掛けた時に入居者の様子を見ながら居酒屋や喫茶店に自由に立ち寄れるなど行き届いた個別支援の体制が組まれている。ホームでのありのままの入居者の様子を詳細に手紙に書いて毎月報告し家族に喜ばれている。家族会を運営推進会議開催に合わせて開くこともあり、大勢の参加をいただき有意義な話し合いが行われている。地域の文化祭への参加や定期的に訪問していただけるボランティアも多く、地域との交流は積極的に行われている。職員は一人ひとりの入居者の思いを大切に見守りを中心にさりげない支援をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	地域密着型サービスの理念に関しては全職員で話し合い、今までの理念を見直し新たな理念に作り変えた。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 職員は管理者から渡された前回の評価を基に日々のケアを振り返りながら話し合い、コメントを書き込むなどして作成した。提供しているサービスを見直す良い機会ともなり、質の向上に役立っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に行われている。参加者は地区役員、包括支援センター所長等で、4ヶ月に1度は家族会も兼ね入居者と家族が参加し意見交換が行われている。会議を通して地域や入居者家族との関わりを更に深めて行きたいと意欲的に取組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月ホームよりお便りを出している。また居室担当者から家族に毎月入居者の様子が送られている。金銭報告も一緒に送付している。家族が来訪した際、苦情、要望等を言いやすい体制が出来ている。意見や要望があればただちに全職員で話し合い、改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の様々な行事に参加して交流を深めている。管理者は地域の方の相談にのったり、地域のために出来ることは積極的に行っている。近隣の方から季節の果物を頂いたり、様々なボランティアの訪問があるなど地域との交流は盛んに行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスについて改めて学びなおし理解を深めた上で職員全員の話し合いを持った。理念の柱として地域の中で安心し充実した暮らしが継続出来るよう支援していくことをおいている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や申し送り時に理念について話し合い確認をしている。職員の話から理念に基づく具体的なケアについて意見統一が図られていて実践にも取り組んでいる様子を伺うことができた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の傾聴ボランティアが毎週訪問している。地域の文化祭が公民館で行われ参加し歌を披露した。その際は傾聴ボランティアがホームから公民館まで送迎している。また管理者は認知症の理解を深めてもらうために地域から依頼されれば講演に出かけたり住民らの相談に応えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価を基にして評価は全員で行なっている。年1回行う自己評価は日々のケアの振り返り、見直しをする良い機会となり改善に取り組むことが出来ている。		

グループホームフランセーズ悠

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。家族会が年3回開かれ、運営推進会議と兼ねて行われている。地区役員・包括支援センター・家族等の出席でホームの取り組みなどを報告し意見・要望をいただき検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か問題がある時は市の担当者に連絡し、連携を図っている。市から派遣されている安心相談員の訪問も毎月あり、入居者の良き相談相手になっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お便りを出してホームの様子を知らせている。また居室担当職員からは各入居者の暮らしぶりを詳細に報告している。金銭管理についても領収書を送付し家族等の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回開催し意見・要望がホームをより良くするためのものであることを説明し、積極的に聴く努力や場面作りをしている。意見等があればただちに全職員で話し合い改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は最小限にしている。新しく入った職員が担当する場合は職員全員で支え、入居者に不安を感じさせないように引継ぎ面で最善の努力をしている。		

グループホームフランセーズ悠

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修・ホーム内研修・外部研修がある。希望した研修会には参加出来るよう配慮されている。研修の内容によっては管理者が参加者を決めている。勉強会には積極的に参加を促している。研修参加後は報告を行い内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており管理者は会の役員をしている。また地域内外の管理者・同業者とも連携を取り合いサービスの質の向上に努めている。	○	職員の相互訪問、交流等の機会を持ち、お互いに刺激しあいサービスの質の向上に活かされていくことを期待します。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する方にはホームに来ていただき入居者や職員とお茶を飲んだりゲームなどを体験していただいている。入居後も家族に来訪していただくことをお願いしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として入居者から日々学ぶことが多い。料理の工夫、干し柿の作り方、昔の言葉や方言など多くの知恵や作法を教えるもらっている。職員は素直な気持ちで入居者に感謝や賞賛の言葉を伝えている。入居者は職員の言葉に励まされ出来ることを意欲的に手伝っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らしの把握を基に一緒に過ごす時間を多くしながら、より良い生活を支えるためにセンター方式のアセスメントシートの一部を活用し、入居者の思いを汲み取る努力をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員での意見交換・カンファレンスを月に1回実施し、気づき、意見・要望を反映した個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回会議をしており、入居者1人ずつの確認をしている。見直しは定期的に行っているが状態が変わった時などにはただちに話し合い新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり通院や買い物などの外出支援を行っている。今後はショートステイの利用も可能になる予定でありホームの多機能性を強化している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関は2機関あり、緊急時などには適切な医療が受けられるようになっている。緊急時の対応も文章化されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末対応指針があり皆で勉強している。家族、かかりつけ医、職員と繰り返し話し合い家族の意向に沿った終末支援を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時にプライバシー保護についての説明を受けている。個人情報には身元引受人のみと制限している。ボランティア・実習生に対してもプライバシー、守秘義務に関して説明している。職員はプライバシーを損ねないよう声掛けに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の様子を見ながら入居者に無理のないように一人ひとりのペース、思いに併せて支援している。週2回の飲酒や居酒屋に職員も同行するなど入居者にも喜ばれている。入居者からは何よりの楽しみだと伺った。		

グループホームフランセーズ悠

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立を参考に入居者の好きなものも取り入れて毎食作っている。職員は入居者と一緒に食事の準備、後かたづけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望し体調がよければ毎日でも入浴が出来る。最低でも週3日は入浴している。職員と一緒に温泉に行くこともある。入浴を嫌がりそうな入居者には声がけや対応に工夫をこらし、安心感をもって入っていただけるよう取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴の中で培ってきた野菜作りや水くれ、家事等得意分野で力量を発揮し、いきいきとした時間が持てるよう支援している。また散歩に出かけたり居酒屋に行くなど一人ひとり楽しんでいる。毎月何処に行きたいか何をしたいかなど相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブも兼ねて遠出をしている。買い物や外出した時には様子を見ながら財布を入居者に手渡し支払いをお願いしている。外出時に入居者と職員とでお茶を飲んでくることもある。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各入居者の行動パターンを把握しており、申し送り時にはその日の気分や状態を職員間で引き継ぎ、目配り・気配りに心がけている。日中は鍵をかけない支援に徹している。		

グループホームフランセーズ悠

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春、秋など数回避難訓練を実施している。防災訓練は消防署立会いの上行われている。同時に通報の仕方、連絡網、消火器の取り扱いも訓練している。火災については火を出さないためのマニュアル、チェック表がある。	○	実際災害があれば地域に住む近隣の方達の協力が大切であると思われる。避難訓練や防災訓練にも近隣住民に参加して頂けるよう運営推進会議等で検討されることを望みます。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に沿って調理している。水分・食事は全量摂れるように声がけをし、少ない時には記録を残し職員間で情報を共有している。入居者の様子で何かあれば医師とも相談している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が広いので車椅子が使いやすい。キッチン、ダイニング、リビングも広く活動しやすい。床暖房で冬は暖かく、天井が高いため夏は涼しいと思われる。薄暗くなると自動的に電気が点くシステムを取り入れる等、安全面での気配りも随所にみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には若い頃の写真や家族の写真が飾られ、使い慣れた家具や調度品が持ち込まれている。椅子・炬燵・ベッドを使用するなど生活しやすい環境づくりに配慮が見られた。各居室からは入居者の個性が感じられ、生活ぶりを垣間見ることができた。		

※  は、重点項目。